

# ■ 野草を利用した景観形成の優良事例

雪印種苗(株) 北海道研究農場

入 山 義 久

## 1 はじめに

美しい草花達は、様々な場面で、私たちの生活に大きく関わっています。家庭では、切花として花瓶に生けられたり、花壇やプランターなどに植栽されたり、また庭の空間に欧米風のガーデニングを施したり、生活の一部を花で飾ることで、私たちの心を癒す効果が期待されます。また市町村単位では大面積に草花が植栽され、ハーブガーデンやローズガーデンなど、花をテーマとした観光スポットも人気を集め、集客効果が期待されています。

現在、緑化に利用されている草花は、主に苗を定植するパンジー、ペチュニア、インパチェンス、花壇や畑などに直接種子を播くヒマワリ、コスモスなど沢山の種類があり、これらの多くは、草丈や花色などの特性が改良され、一般的に『園芸種』と呼ばれています。

一方、今回ご紹介する『野草』は、『園芸種』と異なり、品種改良を全く施しておりません。野草と呼ばれている草花の中には、雑草として扱われてきたものもありますが、野草の中でも特に花が



写真1 野草のミックスフラワー『スノーカントリー北海道』

美しく、また一般家庭でも栽培が容易で、園芸種に劣らずに観賞性が高く、利用価値が高いと考えられる幾つかの草種について、個々の特性と利用事例をご紹介します。

## 2 『野草』の利点と欠点

### 1) 『野草』の利点

**管理の省力化が図れます。**

野生の植物であり、ある程度粗放的に育てても開花させることができます。植えたまま、何も手入れをしなくても美しい花を觀賞できる植物もありますが、最低限、春の追肥、除草、開花後の刈払いなどを行えば、より美しい開花を楽しむことができます。

**環境適応性が優れています。**

国内に自生する野草を材料としているため、日本の気候には十分に適応できます。

**目新しい草種があります。**

今のところ、市場での供給量が少ないため、他に無い珍しい草種がたくさんあります。

### 2) 『野草』の欠点

野草は、花の觀賞を目的に改良された園芸種と比較すると、花色が少なく豪華さに欠け、開花期間も短い傾向があります。しかし、これが野草の良いところでもあると考えられ、日本に昔からある『懐かしい風景』を作り出すことができます(写真1)。また開花する時期も草種毎に決まっているため、季節感を味わうこともできます。

## 3 各草種の特性

**カワミドリ(写真2)**

日当たりの良い草原に生えるシソ科の多年草で

す。7月中旬～9月上旬に赤紫色の花を咲かせます。花弁が散った後も花穂が紫色で美しく、観賞期間が長期に渡ります。草丈は50～100cm、ハーブの一種であり、全体に芳香があります。分枝も多く、面状に植付けると、遠景でラベンダーのような景観が楽しめます。

### エゾミソハギ(写真3)

山野の湿地などに生えるミソハギ科の多年草です。7月中旬～9月上旬に赤紫色の花を咲かせます。小さな花を順々に咲かせるため、観賞期間が長期に渡ります。自生地は水辺であり、排水の悪い湿った土壌でも良好に生育できます。草丈は60～120cm、一株を近景で観賞するよりも、群生させ、遠景で観賞するほうが適すると考えられます。

### オミナエシ(写真4)

日当たりの良い山野に生えるオミナエシ科の多年草です。草丈は60～100cm程度で、開花期間が長く、8月上旬～9月中旬に、直径3～4mmの黄色い花を密に咲かせます。秋の七草のひとつです。

### オトコエシ(写真5)

日当たりの良い山野に生えるオミナエシ科の多年

草です。オミナエシと同様に草丈は60～100cm程度で、8月上旬～9月中旬に直径3～4mmの白色の花を密に咲かせます。つる枝を伸ばして旺盛に広がります。

### エゾカワラナデシコ(写真6)

日当たりの良い草原や川原にはえるナデシコ科の多年草です。草丈は30～80cm程度で、7月中旬～8月上旬に直径4～5cm、花弁の縁が糸状に細かく裂けた桃色の花を咲かせます。

### コハマギク(写真7)

主に海岸の岩上や砂地に自生するキク科の多年草ですが、黒土などでも栽培できます。草丈は15



写真4 オミナエシ



写真2 カワミドリ



写真5 オトコエシ



写真3 エゾミソハギ



写真6 エゾカワラナデシコ



写真7 コハマギク



写真9 エゾノコンギク



写真8 オカトラノオ

~30cmと低く、グランドカバープランツとしても利用可能です。葉は肉質で、地下茎によって旺盛に広がります。開花時期は秋遅く、他の花が咲かない10月上旬~下旬に直径5cm程度の白色の花を咲かせます。近景での観賞が中心と考えられるため、庭先や道路の中央分離帯などでの使用が適すと考えられます。

#### オカトラノオ(写真8)

日当たりの良い草原に生えるサクラソウ科の多年草です。草丈は80~100cmで、茎は分枝せず、直立し、7月中旬~下旬に茎の先端に白い花を密に咲かせます。花穂の長さは10~15cm程度で、虎の尻尾に似ていることから、この名が付いたとされています。開花は播種後3年目以降となり、長期を要しますが、オカトラノオが一面に咲き乱れる姿は感動的です。

#### エゾノコンギク(写真9)

山野に多いキク科の多年草です。草丈は50~100cm、8月中旬から10月上旬に直径2.5cmほどの青紫色の花を多数付けます。ノコンギクは野菊の代表ですが各地に変種が自生しています。

## 4 『野草』の利用事例

### 1) 神居町『くら』

カワミドリを小面積で栽培した事例です。この場所は以前は畑であり、その縁にカワミドリを植栽していました。その後、ソフトクリームの売店を建て、裏側にかけて花壇を再整備しましたが(写真10)、以前に植栽したカワミドリが残っており花を咲かせていました。株元には、前年に落下した種子から発芽した、草丈の低い株も開花しています(写真11)。花壇には歩道も整備され、美味しいソフトクリームを食べながら、花壇の散歩が楽しみ、休日には多くのお客様で賑わっていました。



写真10 神居町『くら』の花壇



写真11 神居町『くら』のカワミドリ

## 2) 留辺蘂町『おんねゆ温泉道の駅』

交通の要所でもある『おんねゆ温泉道の駅』において、野草の越冬試験を実施しました。

カワミドリを大面積で栽培した事例です。カワミドリは近景でも十分に観賞できますが、大面積に植栽することで、遠景の風景としても楽しめます(写真12)。後ろに見えるのは、定時になると楽しく時を知らせる『からくり時計』です。



写真12 『おんねゆ温泉道の駅』のカワミドリ



写真13 『おんねゆ温泉道の駅』のオミナエシ

また『道の駅』から『山の水族館』へ続く歩道脇に、オミナエシを植栽しました(写真13)。少し草丈が高くなってしまいましたが、美しい開花が見られました。

## 3) 上川支庁『合同庁舎』周辺

上川支庁の『合同庁舎』周辺において、ローメンテナンスを目的とした栽培試験を実施しました。野草や園芸種など十数種類を供試した結果、除草を全くしない過酷な条件の中、エゾカワラナデシコが旺盛に開花しました(写真14, 15)。

野生のエゾカワラナデシコは海岸近くの丘陵地などに自生し、他の雑草とも共存して生育してい

るため、このような条件下でも開花が可能と思われます。上川支庁での景観は、自然に発生した『お花畑』と非常に近い景観であると考えられます。

## 5 おわりに

今回は、観賞を目的とした野草の利用についてご紹介しましたが、自然環境の保護、保全を目的とした野草の利用も、近年、注目されているようです。

山間部に建設される道路の法面、砂防ダム周辺、河川や湖沼など水辺環境の改修工事などにおいて、従来の芝生などの外来種を使わず、在来の草花や草本類、水生植物などの『野草』を用いて緑化する動きが見られます。国立公園内など、他の地域の遺伝子との交雑を避けたい場合は、緑化する区域内で種子を採種することも必要になります。

一昔前は身近に見ることができた植物が、現代になり徐々にその姿を消しています。遺伝資源の攪乱が少なく環境に優しい『野草』を用いて、私達みんなの自然を守りたいと考えております。



写真14 『上川支庁合同庁舎』のエゾカワラナデシコ



写真15 『上川支庁合同庁舎』のエゾカワラナデシコ